

システムの「ウチ・ソト」をぼんやりと考える

大倉 裕貴 (Yuki Okura)

富山県立大学

システムを考えるとき、大抵の場合なんらかのモデルを組み立てて、議論がなされる。モデルは数学の考え方を活用したり、場合によってはなんらかの記述記号によって記述が試みられる。対象としたいシステムに対してモデルを考える際、記述したい対象の中心と、その対象に影響を与える外部が想定される範囲の中で考えられ、ある種の「ウチ」と「ソト」とその境界が、対象の中心を決めてモデル化した際に自ずと決まる。入出力のある状態空間モデルを例にすればソトとの相互作用を表す入力と出力がウチとソトの境界であり、内部のモデルを記述する状態とその関係式がウチであり、考えられる外部入力のモデルがソトであるとも考えることも可能であると思われる。しかし、モデルを定めた際に、ウチとソトの関係は自ずと一意に決めざるを得ない訳であるが、不確かさ・不確実さ・あいまいさなどが無視できない現代のさまざまなシステムを論じる際に、この一意に決まるウチとソトとその境界は、システムのモデル化における、難題の一つではないかと思う。そこで、この「ウチ・ソト」の関係性を「ぼんやりと」考えることによって難題を克服できる可能性はあるのか、そもそもシステムのウチ・ソトを「ぼんやりと」考えることが可能な方法論を構築する道はあるのか、などについて議論・検討をしていきたい。